

令和6年度入学式

令和6年度の入学式が4月2日、本学体育館で行われ、昨年より5人多い327人（国際学部132人、経営情報学部195人）の新入生が、新たな大学生活をスタートさせました。

式典では、晴れやかな表情の新入生が1人ずつ氏名を呼ばれて起立し、越智敏夫学長が式辞を述べました。越智学長は、自身の学生時代を振り返りつつ「大学で学ぶ目的と意義を自分で考えてほしい」と呼びかけ、「自分の将来について心配する必要はない。4年間、先生の研究成果をもとにした授業に触れて、自分自身の価値観をつくってください。4年後の皆さんの姿を楽しみにしています」と激励しました。

続いて学友会長の経営学科・中村了さんが「大学は自由な空間。一つのことにとこだわらず、多くの

みずき野に集う327人

夢が膨らむキャンパスライフ

ことに挑戦しながらより良い学校生活を送ってください」と歓迎の言葉を述べ、最後に新入生代表の経営学科・山田美也さんが「日々謙虚に勉強し知識や技術を身につけ、将来は大学で学んだことを活かして社会に貢献したい。大学生活や課外活動に積極的に取り組み、人間として成長していきたいと思います」と力強く抱負を述べました。

海外提携大学であるカナダのアルバータ大学をはじめアメリカ、中国、韓国、ラトビアの5大学から、言語能力を高める留学への参加を呼び掛けるお祝いビデオメッセージも披露されました。このあと新入生はガイダンスに臨み、翌日のオリエンテーションでキャンパスライフの第一歩を踏み出しました。桜の開花にはまだ遠い肌寒い一日でしたが、保護者の参加制限が解かれてマスク姿も少なくなり、ようやく日常を取り戻した喜びにあふれる入学式でした。



CONTENTS

1~4面

令和6年度入学式特集
学長式辞
新入生代表・私の抱負
在学生代表・歓迎の言葉

4・5面

新任教員紹介
学内合同企業説明会
にいがた観光親善大使に就任
開学30周年記念
国際学部シンポジウム
日中餃子パーティー

6・7面

派遣留学報告 4カ国へ31人が参加
教員の活動

8~12面

令和5年度卒業式特集
学長式辞・理事長祝辞・卒業生答辞

退職教員あいさつ・卒業にあたって
24人にJABEE修了証書授与
特別表彰・式典スナップ

10面

上海華東師範大学で輝く成果
クラス1位で栄誉賞
作文コンクール優秀賞



新潟国際情報大学
新学長 越智 敏夫

どの高校に行くかは別に、とにかく高校に行くのは常識である、みたいな考えの人がほとんどだったのでないでしょうか。そうなるとう高校の授業の意味をいちいち考えることがないのも当然でしょう。

った人にはわかるけれど、行ったことのない人にはまったくわからない」という場所です。もちろん予備校生にとって唯一の目的は大学に合格することなので、それ以外のことは不要なはず。他のことを考えずにひたすら勉強せよ、と。ところがこれもまた不思議なもので、ひたすら勉強するために他のこととか、何のためにこんなことをやっているのか、ということについて触れざるを得ないんですね。

僕の場合は圧倒的に講義内容でした。英語でも数学でも世界史でも、それらの教員はどのように点を取るのかというテクニクを教えるよりも、各科目の成り立ちとか、科目自体のなかにある他の科目との違い、特徴を話し、さらには自分がなぜその専門を選択したのか、ということまで伝えようとしていたように思います。それらのこと、つまりは各科目を勉強することの面白ささえ伝われば、各受験生は勝手に勉強してくれるわけで、そうなるとう予備校の教員としても楽です。

そして大学という空間はそうした意味や意義について考える度合いがもっと高くなります。先に言ったように予備校の場合は「大学に入る」というわかりやすい目的があるのですが、大学の目的というとうとて、もわかりにくくなります。なので大学に入学するというのは、目的は不明だけれども、とにかくそこに入ることを自分で選択したということ。わかりにくいですが、

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。学長の越智です。教員としては政治学を教えています。ただ、こうしてはじめてお会いするときに言うのもなんですが、僕は大学に入ったとき、研究者になるつもりはまったくありませんでした。そもそも大学を受験したとき、何になりたいのかさえ決めていませんでした。さらには高校時代にあまり

大学で学ぶ意義を考えよう

に遊びすぎたために大学受験にはすべて失敗し、予備校に通うことになりました。こうして自分の人生について何も決めないまま高校を卒業することになりました。

と。ところが人生って不思議なもので、その予備校の授業でものを考えることの面白さの一端に触れることになりました。あ、勉強しておもしろいやんけ、と。

予備校がどういうところかというところ「行

できるわけじゃないですよ。なので予備校で授業をする先生たちはどうしても、その科目を勉強することの意味とか、ものを考えるとはどういうことかを示さざるを得ないんです。ただそれらの示し方はいろいろで、授業中に直接表現する教員もいれば、各科目の講義内容を通じてそれらを示そうとする教員もいるでしょう。各予備校生がどちらから影響を受け

ちも各科目の意義とか目的とか、まじめに説いていたはず。とすれば高校と予備校の差を感じたというの、おそらくこっこの問題だったんだろうと思います。で、その違いというのは、その空間を自分で選んだかどうかということだったんだか今となっては思うわけですね。つまり高校まではそこに進学することが当然のように思っていて、

でも皆さんはそういう場所としての大学に自分の判断で入ったのです。ですから皆さんは今日から大学で学ぶ目的と意義について自分で考えなければなりません。そしてそのことは大学で学ぶことだけではなくて、自分自身の価値や社会の価値について考えることでもあります。そこに大学の授業の難しさがあります。高校、予備校まで

と異なり、大学の講義にはどうしても価値の問題が入ってきます。

たとえば「第二次世界大戦はなぜ起きたのか」という問題を考えるにしても、そこには多くの理由が考えられます。ヒトラーが悪かったのか、第一次世界大戦の戦勝国がドイツを賠償問題で追い込んだのが悪かったのか。他にも無限の要因があるでしょう。それらのなかで何を拾い、何を捨てるのか。何と何が相関係で、そのなかの因果関係はどれか。

何億、何十億という人が蠢いているなかで錯綜した事象が複合的に起きていくわけです。それらの連関は非常に複雑です。そうした事態を前にして自分自身はそれらの理由、原因として何を選びとるのかという問題です。これは歴史学者のE・H・カーが『歴史とは何か』という本のなかで「歴史の連関について考えることは価値判断の

問題である」と書いたとおりです。しかも勝手に選んで良いわけではなくて、説得力をもつものを指摘しなければならぬ。

ですからそんなときにたとえば「第二次世界大戦はフリーメイソンの陰謀だった」とみたいなことを言うのは恥ずかしいことです。誰かの陰謀で動くほど世の中は簡単で

自分自身の価値観つくろう

はありませぬ。したがって陰謀論というのは問題の単純化どころか、思考の否定です。

こうした問題は戦争のようなものでなくとも、たとえば「明治ブルガリアヨーグルトはなぜ売れたのか」ということでも同じです。その理由は本当に複雑で、現象としては「売れたから売れた」という事実があ

るだけです。その原因を見つけようとするのは本当に大変ですし、さらにはそれらはすべてあとづけの論理です。そんなものが事前にわかるのであれば、世の中の乳製品メーカーのすべての製品は売れ続けるはず

です。だからこそこうしたことについて考えるのは膨大な情報を自分の価値で取捨選択していくでもあります。

以上のように世界で起きている現象について大学で考えることは、自分自身の価値にもとづいて説得力のある議論を進めていくということなんです。もちろんそれらは本当に大変な作業です。途方にくれるかもしれませんが、しかし大学という空間にいる人間、つまり教員たちはそのような作業を自

分なりに続けてきた人間です。進まない研究にうんざりしつつ、失意と逡巡のなかでなんとか研究を進めているのです。専門はいろいろですが、それぞれが自分の価値をもとにして学問として説得力のあることを言い続けてきたのです。

みなさんは来週からそうした教員の授業を受けることになります。四年間、彼ら／彼女らの研究成果をもとにした授業に触れることによって自分

身の価値観をつくっていくってください。それが大きさにいえばみずからの価値を洗練するということです。そしてそのような価値の洗練という作業をしているうちに自分がすべきことがだんだんわかってくるはずです。自分の将来に関して心配する必要はありません。4年後の皆さんの姿を楽しみにしています。

私の抱負



新入生代表 経営学科
山田 美也子

まだ寒さが残る中、少しずつ春の暖かさを感じる季節になりました。今日は私たち新入生のために、このよう

な素晴らしい入学式を挙行していただき、誠にありがとうございます。また、数々の激励のお言葉や、私たちを支え、応援してくださいました家族や周りの方々にも心より御礼を申し上げます。

今年の1月1日、能登半島地震があり、

好奇心と探究心忘れず日々努力

多くの人たちの命や生活が奪われるという悲しい出来事が起こりました。その被害の把握にインターネット技術やAIが活躍しました。しかし、一方で根拠のない、いわゆるデマ情報がSNSで飛び交い、混乱を引き起こしたり不安を拡大させたりしまし

た。これらのことから、情報技術は有用性ととも危険性をはらんでいると考えます。これから時代を担う私たちは膨大な情報の中から正しい情報を的確に検索できる能力を持つことが重要であると感じました。また、chatGPTの出現で生成A

有意義なものとするために、知的好奇心と探究心を忘れず、日々成長し続けることを誓い、新入生代表の抱負とさせていただきます。

Iも私たちの生活に大きな影響を与える可能性があると思っています。これからの情報技術の進歩や昨今のような社会の変化が目まぐるしい時代にだからこそ、私は日々謙虚に勉強し続けて、知識や技術をしつかりと身につけたいと考えました。そして、

有意義なものとするために、知的好奇心と探究心を忘れず、日々成長し続けることを誓い、新入生代表の抱負とさせていただきます。



在学生代表 学友会長
経営学科 中村 了

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。またご父母の皆様にも、お祝い申し上げます。在学生を代表して歓迎の意を表したいと思えます。

皆さんは今回の門出をどのよう受け止めているのでしょうか。期待や不安などいろいろな気持ちがあるかもしれません。そこで僭越ながら私から、大学生活をよりよくする上で大切に思うことを二つアドバイスさせていただきます。

新任教員紹介



井堂 有子 いどう ゆうこ

国際文化学科 教授

- 担当科目 異文化理解、世界史(近現代)、中東・北アフリカ地域論
- 研究分野 中東地域研究、開発学、食の安全保障

- 学歴 2005年 オランダ国際社会科学研究所 修士課程修了
- 2017年 東京大学大学院総合文化研究科 博士課程単位取得退学
- 2001~12年 中東諸国で調査分析・国際協力の実務に従事後博士課程に復学
- 2019~20年 上智大学イスラム研究センター特別研究員
- 2020~23年 日本国際問題研究所研究員・東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所ジュニア・フェロー(〜24年)



阿部 淑人 あべ よしと

情報システム学科 教授

- 担当科目 ソフトウェア開発、情報システム設計、情報倫理 など
- 研究分野 デジタル信号処理、画像認識、コンピュータグラフィックス など

- 学歴 1988年 新潟大学大学院工学研究科電子工学専攻修了
- 1998年 同大学大学院自然科学研究科生産科学専攻後期博士課程修了
- 1988年4月~2003年3月 大日本印刷生産総合研究所勤務
- 2003年4月~2023年3月 新潟県工業技術総合研究所勤務
- 2023年4月~2024年3月 新潟県産業労働部創業・イノベーション推進課勤務



佐藤 恵一 さとう けいいち

情報システム学科 教授

- 担当科目 情報とコンピューティング、オペレーティングシステム、ネットワークコンピューティング
- 研究分野 人間情報学、スポーツ科学、教育工学

- 学歴 1985年3月 日本大学大学院生産工学研究科博士前期課程電気工学専攻修了
- 2021年3月 公立はこだて未来大学 博士(システム情報科学)
- 1991年4月~1995年3月 愛知技術短期大学(現在愛知工科大学)電子工学専任講師
- 1995年4月~2023年3月 函館工業高等学校情報工学科(専任講師~教授)



高井 透 たかい とおる

経営学科 教授

- 担当科目 経営戦略論、経営学総論
- 研究分野 中堅・中小企業の経営戦略

- 学歴 1993年3月 早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程修了
- 1996年4月~1999年3月 桜美林大学経済学部助教授
- 2000年4月~2002年3月 日本大学商学部助教授
- 2002年4月~2024年3月 同学部教授

自由空間で

悔いない大学生生活を

一つ目は「サークルにはとりにくく、皆が別々に行動する場面がほとんどです。そうになると、友人を作る機会が少なくなります。私自身、サークルに入っていないけれど

も欠席するのも自由です。しかし、自由であると同時に自分の行った結果に責任を持つことがより強く求められます。授業を欠席した結果、単位がとれなくなっても、それは自己責任です。留年するのと同様です。大学は自由である代わりに、その責任は本人に委ねられることが多いのです。

一方で見方を変える
と自由な環境というの

交友関係はほとんどつくるのができなかつたと思います。大学の友人は社会人になってからも続きやすいと思います。一生つき合う友人を作る最後のチャンスかもしれません。二つ目は「大学は自己責任の塊である」ということです。大学は自由な空間です。髪を染めるのも自由、服装も自由です。授業に遅刻するの

は素晴らしいものです。おそらく、多くの人にとって大学が最後の学校生活となることでしょう。ぜひ、自己責任という言葉を念頭に置き、悔いない学校生活を送ってください。多くのことに挑戦して4年間の学生生活がより良いものになることを願い、歓迎の言葉とさせていただきます。

学内合同企業説明会

2025年3月卒業予定者を対象とした学内合同企業説明会が3月13、14日に、本学みずき野キャンパス体育館で開催され、2日間で136の企業・団体が参加しました。

136企業・団体が参加

説明会場には企業ごとのブースが設けられ、各企業の特徴や募集予定について企業側から説明



参加学生からは、「新しく知ることができた企業があり、就活の幅が広がった」「他の合同説明会で聞けなかった企業の話が聞けてよかった」などの声が聞かれました。参加した企業・団体の方々には、本学の学生のために貴重な時間をいただき、心より御礼申し上げます。

明が行われました。参加した学生は企業の人事担当者との熱心に話を傾け、早期の内定獲得に向けて活動意欲を高めていました。参加した企業の中には、実際に働く本学卒業生の姿を紹介する企業もあり、学生たちは親近感を持ちながら話を聞いていました。普段は得られない先輩たちの生の声が聞ける、有意義な時間となりました。

にいがた観光親善大使に就任

私は「訪れる人と住む人のどちらにも愛される新潟を一緒につくり上げていきたい」という思いで選考会に挑戦し、第14代にいがた観光親善大使に選出された。

約半年間、さまざまなコンベンションや行事に参加し、新潟の魅力発信に努めてきました。日々新たな発見や出会いがあり、たくさんの学びを得ています。これまでも学内のさまざまなプログラムに参加



(国際文化学科 4年 山賀 愛美)

新潟でつなぐ日本と世界

開学30周年記念

国際学部シンポジウム

開学30周年記念の国際学部シンポジウム「新潟でつなぐ日本と世界」が3月23日、本学新潟中央キャンパスで開催され、本学教員・学生のほか一般市民60人を含めおよそ100人が参加しました。

第1部 基調講演

第1部では、基調講演として、外国の歴史家お二人よりご講演をいただきました。

アルジェ大学元教授、雑誌『N A Q D』編集長ダホー・ジェルバル氏の「都市環境における被植



ダホー・ジェルバル氏(写真左)と通訳のル・ルー・ブレンドン氏(写真右)

民者の経験・アルジェリア西部オラン植民地の場合」は、フランス帝国主義からの独立をめざしたアルジェリア解放戦争を経験したジェルバル氏自身の個人史を踏まえた脱植民地化の歴史をたどる内容でした。

アメリカの歴史家で日本の北陸とアジアの関係を200年という長いスパンで描くハーバード大学教授アンドルー・ゴードン氏の「日本近代史の魅力」では、日本近現代史の課題として、「不都合の過去を直視すること」・佐渡金山世界遺産申請の問題点」など、今、ここ新潟で考えなければならぬ、歴史との向き合い方について、貴重な示唆を得ることができました。

都市環境における被植民者の経験 D・ジェルバル氏 日本近代史の魅力 A・ゴードン氏

第2部 質疑と報告

第2部では、本学国際学部の教員がコメンテーターとして加わって「基調講演の内容を深める」ためのディスカッションと質疑応答が行われました。

現代史をいかに教えるか

本学准教授2氏が研究報告

続いて「現代史をいかに教えるか」という観点から、本学鈴木俊弘准教授の「ニイガタ、アメリカ・現代史を教える／学ぶことの特異性と普遍性について」、中村貴准教授の「個人か

(国際文化学科教授 申銀珠)



「日本近代史の魅力」のテーマで講演するアンドルー・ゴードン氏

目次餃子パーティー

新潟市にある駐新潟中国総領事館関係者らをお招きした「餃子パーティー」が昨年12月15日に、本学学生食堂「弥彦」で開催されました。

食に込めた平和の願い 中国総領事館職員と交流

駐新潟総領事・崔為磊さんからビデオメッセージのご挨拶をいただいたあと、漢詩や中国歌の合唱、中国少数民族の伝統民族衣装ショーやクイズなどアトラクションを楽し



伝統民族衣装ショー

しみ、中国総領事館のкокクさんと有志の学生たちが協力して作った水餃子を食べながら、交流を深めました。

私はイベントの実行委員長として、1カ月以上前から実行委員の学生たちとともに準備を進めてきました。初めての試みでしたが、多くの学生たちの協力でこのイベントを成功させることができました。

イベント開催を通じて大学や国を越えた多くの人々が出会い、平和の礎が築かれたことを実感しています。来年度もこのような活動が実施されることを期待しています。

(国際文化学科 4年 阿部俊也)

多文化共生の出会いと学び

アメリカ

私はセントラルミズーリ州立大学に4か月間留学しました。

最初は英語で自分の意思を伝えることがとても難しかったです。それは、自分の英語の能力不足や自分の自信のなさの原因だったように思います。さらに、周りの留学生が当たり前のよう

優しさに触れ前向きに

国際文化学科3年 富山 侑貴

に英語を話す姿を見て、自分はずもつと英語を勉強してこなかったのだらうと思ひました。毎日が曇天のような、なんともやりきれない気持ちでした。

それでも、授業を受けたり、パーティーに参加したりする中で、私はたくさんの人と出会いました。日本に留学していた経験のあるアメリカ人、家族でアメリカに移住したメキシコ人、勤



インターナショナルスチューデントオーガニゼーションという部活のパーティー

めていた会社をやめてアメリカに移住したトルコ人などです。言語の違い、習慣の違いで悩むこと、苦しむことはたくさんあったと思います。しかし、皆、毎日笑顔を保ち、私にとっても親切にしてくれました。また、英語があまり堪能ではない留学生は積極的にいろんな人に話しかけて、英語を上達したいという強い気持ちがありました。そのように、な人々に影響されて、私もあまり悩まずに英語をしゃべってみようという気持ちになることができました。

中国

私たちは昨年の9月から約4か月の間、中国・上海の華東師範大学に留学しました。中国語コースからは3人の学生が参加しました。

10カ国の留学生と交流

国際文化学科3年 森川 遼

華東師範大学が主催する留学プログラムには、毎年さまざまな国からたくさんの方が参加します。私のクラスには韓国、口



クラスメートたちと(後列右から2番目が森川さん)

シア、ドイツ、ブラジルなど10カ国の方々がいました。また、年齢層も幅広く、50歳の方もクラスにいました。授業は学生の質問が中心となっており、先生は授業をいったん止めて進められていました。海外の方はわからないことがあればその場で質問します。先生は授業をいったん止めて、分かるまで教えてくれます。また、授業後も質問する人が多く、よく質問の列ができていました。このような授業スタイルを初めて体験したので、最初はとても戸惑いました。しかし、周りも当たり前にしていることに慣れ、分らないことがあればすぐに質問する習慣が身につきました。

11月には修学旅行がありました。桐廬か蘇州の2つから選択でき、私は桐廬へ行きました。大学のある上海は夜でも明るく、人が多い大都市です。一方、桐廬は自然が豊かで、行く場所すべてがきれいでした。2泊3日の旅行にバスガイドの方が同行してくださり、移動の際は中国の文化をクイズ形式で教えていただきました。新しい出会いもあり、とても楽しむことができました。

あつという間の4か月でしたが、言語の壁に直面すること、海外の方と一緒に生活することなど、貴重な体験をたくさん経験することができました。最後に、今回私たちの派遣留学に携わっていただいた皆さま、本当にありがとうございました。

佐藤 泰子(国際文化学科・講師)

・(2024年3月7日) "Boosting Speaking Confidence in Japanese EFL Learners: AI Tools and Pedagogical Strategies" presented by SATO, Yasuko and KONTA, Ichi (a 4th-year student in her seminar) . Language Education Colloquium (The Institute for Language Education & Research, Seoul National University of Science and Technology in Korea)

謝 凱斐(経営学科・教授)

・(2024年3月6日) 「燕三条における関係人口と起業ダイナミズム」SDGsフォーラム国際連合中間発表会(国立高雄科技大学)

堀川 祐里(国際文化学科・准教授)

・(2024年1月6日) 受賞者講演「生理休暇にこだわった女子学生が戦時日本に働く女性に出会う」第18回女性史学賞 授賞式(奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター・オンライン)

3) 競争的資金獲得研究

内田 亨(経営学科・教授)

・(2024年4月より新規~2025年3月) 2024年度古泉財団研究費助成金「陸上養殖のビジネスモデルの構築: ローカルにおけるエコを踏まえて」研究代表者: 鹿野葉々香(経営情報学部経営学科3年生)・研究分担者: 内田亨、高井透(2024年度より本学経営学科教員)

謝 凱斐(経営学科・教授)

・(2024年2月より新規~2027年1月) 中央大学経済研究所「現代企業制度研究」研究分担者

4) 委員・社会的活動・記事・その他

内田 亨(経営学科・教授)

・(2024年3月11日) 2023年度新潟県経営品質賞審査

梅原 英一(情報システム学科・教授)

・(2024年2月22日) 論文賞の受賞「消費者の紙の出版物、電子出版への意識と行動の分析と利用促進策」(日本印刷学会)

謝 凱斐(経営学科・教授)

・(2023年10月1日より継続~2025年9月30日) 日本危機管理学会 理事(東京)
・(2024年1月1日より新規~2025年12月31日) 高雄師範大学「国語読経教育プロジェクト」国際推進委員(台湾高雄)

山田 裕史(国際文化学科・教授)

・(2023年12月14日) NHKラジオニュース「ワールドレポート: 特別首脳会議で来日のカンボジア新首相」でコメント紹介
・(2024年2月26日) 「読売新聞」朝刊「カンボジアと与党勝の見通し 上院選投票」にコメント掲載
・(2024年2月26日) 「日本経済新聞」朝刊および電子版「カンボジア上院選、与党勝へ 独裁体制固まる」にコメント掲載

ニュージーランド

私は9月中旬から1月末まで、約4か月間ニュージーランドに留学しました。ニュージーランドでの留学経験は、英語やニュージーランドの文化を学ぶことができるだけでなく、私自身が人として成長するきっかけを得ることができました。

歴史学んで異文化理解

国際文化学科3年 佐藤 広明

留学中に最も興味を持ったことは、ニュージーランドの先住民であるマオリ族に会って話した。ワイカト大学では英語だけでなく、マオリ語やマオリ族に関する歴史、文化なども学ぶことができます。マオリ族と白人入植者による争いの歴史を聞き、とても驚かされた。マオリ族と白人の両者が、お互いの文化を尊重し合っていることが、伝統的な食べ物や両方の言語が併記されている看板やテレビCMなどあらゆるものから理解できたからです。歴史を教えてください。

韓国

私たちが韓国語コースの学生は、昨年9月から約5か月間、韓国の慶熙大学校に留学しました。長いようで短い5か月間でしたが、毎日充実し、有意義な留学生活を送ることができました。

日韓の歴史に興味わく

国際文化学科3年 塩原 花奈

とても有意義な時間を過ごすことができました。これからは、さらに韓国語の勉強に励むとともに、韓国と日本の歴史にも関心を向けていきたいです。今回の留学に携わっていただいた大学の先生方、学務課の方々、留学準備や留学中の生活を多方面から支えていただき、本当にありがとうございました。今回の留学の経験を活かし、今後も努力していきたいと思えます。



ワイカト大学にて(後列右から3番目が佐藤さん)

か意思疎通ができない環境に置かれたため、確実に韓国語の話す能力を向上させることができたと思います。また、習った文法を実際に使ってみると、たくさん会話をすることが大切だと実感しました。また、語学堂のなかで生活しながら、中国、香港、台湾、ドイツ、イギリス、フランスなど、さまざまな国の人たちと出会うことができました。そこで、韓国の文化だけではなく、いろいろな国の文化を知り、異文化理解も深めることができました。留学でしか味わうことができない貴重な経験を送ることができたと思います。



南怡島にてクラスメートたちと(右から3番目が塩原さん)

教員の活動 (本人申告による)

1) 研究論文・図書

梅原 英一(情報システム学科・教授)

・(2024年2月)「読者調査に見る紙マンガと電子マンガの嗜好の違い」日本印刷学会誌 第61巻 第1号 (8-14頁)

佐々木 宏之(経営学科・教授)

・(2024年2月) "Is non-synesthetes' B Blue? Grapheme-color association improves non-synesthetes' detection in visual search." *Consciousness and Cognition*, Elsevier Vol.118 (103632)

謝 凱雲(経営学科・教授)

・(2024年2月)「燕三条地域における起業ダイナミズム-COVID-19危機をベースにして-」企業研究 第44巻 (175-186頁)
・(2024年3月)「燕三条における企業家のセンス・マーケティング形成-COVID-19危機への対応をベースとして-」危機管理研究 第32巻 (9-19頁)

藤本 直生(国際文化学科・准教授)

・(2024年1月) Naoki Fujimoto-Adamson, John L. Adamson, & Mariya Aida Niendorf. "Exploring the supervisors' writing experiences and their effects on undergraduate thesis supervisory practices: A comparison of Japanese and Swedish contexts." *Research in Comparative and International Education*, Sage Publication Vol.19, No.1 (23-45)

矢口 裕子(国際文化学科・教授)

・(2023年11月)「アナイス・ニンの魂と肉体の実験室——パリ、1930年代」小鳥遊書房 (270頁)

山田 裕史(国際文化学科・教授)

・(2024年2月)「体制維持に資する選挙機能の多様性とその限界——人民党支配下のカンボジアにおけるコミュニケーション評議会選挙」山田紀彦編著『権威主義体制にとって選挙とは何か——独裁者のジレンマと試行錯誤』ミネルヴァ書房 (117-149頁)

2) 学会・研究会・講演等

内田 亨(経営学科・教授)

・(2023年9月16日) Remy Magnier-Watanabe, Toru Uchida "Emotional Contagion at Work in Japan Predicated on Familiarity" 国際戦略経営研究会2023年度年次大会 (東京農工大学)
・(2023年11月11日)「欧州における水産養殖事業のサステナブルエコモデルの可能性」日本経営品質学会 2023年秋季研究発表大会 (ハリウッド大学院大学)
・(2024年3月6日)「海の豊かさを守るためのふり養殖事業: ニッスイグループ黒潮水産株式会社」の経営的事例を通して」SDGsフォーラム国際連合中間発表会 (国立高雄科技大学)

小宮山 智志(経営学科・准教授)

・(2024年3月16日・17日)「検索キーワードの共起分析によるコロナ禍の行動制限が健康意識に与えた影響についての探索的研究」第76回数理社会学会大会 (大阪大学)

佐々木 桐子(経営学科・准教授)

・(2023年12月11日-13日) "Simulation Modeling of a Conceptual Model for Supply Chain Risks in Japan's Automobile Industry." IIAI AAI 2023-Winter Congress (Bali)
・(2024年3月1日)「サプライチェーンネットワークの途絶に関する概念モデルの構築」日本シミュレーション学会多次元移動通信網研究会 (中央大学)

新潟国際情報大学
学長 越智 敏夫

入ってもコンバや合宿は禁止され、まじめなことにしかしてなかったのではないでしようか。サークル活動もさまざまな点で制限されていたことでしょう。学食の椅子の数も減らされ、テーブルはアクリル板で仕切られ、友達とおしゃべりしながら食事することもできなかったと思います。

その後、だんだんと普通の学生生活にもどっていきはしますが、やはりこの4年はあらゆる意味でコロナの4年だったわけですね。そして問題はそれが皆さんにとってどういう意味をもつかということです。

この4年、世界全体がコロナを経験してきました。それを皆さんは大学生として経験したのです。大学という場所はものごとを理屈で考える場所です。ですから皆さんはコロナを理屈で考えるという義務を負っているのです。では理屈でものを考えるということはどういうことでしょうか。

たとえばコロナのような現象は非常に複雑です。未知のウイルスが人類を殺戮する。そ

生の終わり、2022年2月にはロシア共和国がウクライナに侵攻します。また4年生の後期が始まった2023年10月にはハマスがイスラエルを攻撃し、その結果、イスラエルはガザ侵攻を開始します。これらの悲劇はいまも進行中で、その終焉の構図はまったく見えないままです。

こうした4年間は皆さんにとってどのようなものでしたか。この4年間は私たち教職員にとっても大学とは何かということを考える時間でした。コンバや合宿のないゼミナールって味気ないような気もします。でもゼミナールの本質は酒を飲んだり、仲間と一緒に温泉に入ることではないはずなんです。オンライン授業にも便利などころがあるのは確かです。

とはいえ、ふだんからすべての講義やゼミをオンラインにすればいいのではないかとという意見には異を唱えたくありません。こうなるとそもそも教育とは何かという点にまで話はひろがります。

そうした数多くの議論は大学の外にも波及します。コロナのもと、私たちはどのように行動すべきなのか。そもそもコロナに対して

「因果関係」ラジカルにとらえ 「コロナの4年間」問い続けよ

の感染経路さえわかりにくいというえに、症状自体の個体差も大きい。ワクチンの開発にも時間がかかる。そうしたなかでなんらかの対策を講じないと死者はひたすら増大するだけです。暗中模索のなか、人類はなんとかコロナで死ぬ人間を減らそうとしてきました。それらの作業の大変さは、今日、ここにおいてになつている中原市長はじめ、新潟市役所の皆さんが体験されたとおりです。

そしてこの4年間に私たちが経験したものはコロナだけではありません。皆さんの2年

何ができるのか、何をすべきではないのか。地方自治体や政府の予算や人員はどこにどう配分すべきか。そのような現在進行形の災厄のなか、人々は対応に苦慮してきました。そうしたなかで何が合理的なのか、つまり何が理屈になつていっているのか、それらをめぐる議論は非常に複雑なものになります。専門家の意見はどこまで尊重されるべきなのか。そもそも専門家の意見さえ一致しないとき、専門家の声を政治家や官僚はどのように聞くべきなのか。またそれを市民にどのように説明すべきなのか。

こういふとき、人間に対して誘惑するかのようになりがちです。後悔することもあれば、なかったことにしたいこともあると思います。しかし後悔していつてください。どんな失敗をしても、ど

西圏、福岡県を対象区域として緊急事態宣言が出され、後に全国47都道府県に拡大されます。本学では教員、職員の協力のもと、授業をオンラインで開講するための準備を進め、なんとか連休前の4月27日にオンライン授業を開始することができました。そのあいだ皆さんはノートパソコンをいきなり渡され、オンライン用のガイドランスはあったものの、新入生として前期授業はすべてパソコンのディスプレイを見るという行為になりました。

そういう状態で始まった皆さんの大学生活の大変さはその後も続きます。1年生の後期からは対面授業が始めることができたとはいえ、教室では座席数が減らされ、隣の学生との距離も離れていたはずで

んな愚かなことをしても、それらはいりつばな後悔を生みます。だからこそ生きていけるのです。

自分自身のことを言うと、僕も失敗だらけの人生です。あの頃にもどってやりなおしたいと思つこともありますが、自信を持って言えるのは、あの頃にもどつたとしても絶対に同じことをまたやるだろうということです。

理事長祝辞



学校法人 新潟平成学院
理事長 佐々木 辰弥

お祝いの挨拶に先立ち、元日の能登半島地震において被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに、一刻も早い復興をお祈り申し上げます。

本日卒業式を迎えられた、国際学部114名、経営情報学部181名の皆さん、卒業おめでとうございます。また、今日まで育て支えてこられた御父母の皆さん、教育、学生支援にご尽力いただいた教職員の皆さんにも併せて感謝とお祝いを申し上げます。

卒業生の皆さんの今の心境は如何でしょうか。やり切った満足感、充実感でしょうか。もう少し頑張れたという心残りがあられるのでしょうか。そして卒業の日を迎えた喜びでしょうか。まだ少し学生でいたい、友と別れたくない寂しさでしょうか。様々な思いが走馬灯のように脳裏を駆け巡っていることでしょうか。

この4年間を振り返ってみると、オンライン授業からハイブリッド授業、海外留学やゼミ活動、部活動の断念等、コロナ禍による不

人間、そんなに成長しません。

だからこそ、うだうだと考え続けるのです。そしてさきほどから言っているように因果関係の確定はとても困難です。たとえばある学長がある大学において、その大学がもしひどいことになったとき、そのひどい状態はその学長のせいであるかと言つてもできず、その学長がいたおかげでその

自由な学生生活が最も大きな出来事だったのではないのでしょうか。私自身も自分の人生の中で3年の長きに亘り命の危険を考えさせられたことは初めてでした。未だ収束したわけではなく引き続き注意する必要があります。

皆さんは、いよいよ、これから実社会に踏み出します。少子高齢化、物価高、環境問題や自然災害、経済問題や金融不安等、決して安全、安心して暮らせる環境ではないかもしれません。しかし躊躇うことはありません。皆さんには4年間の学びの積み重ねがあります。取り組んできたことを思い出しながら一つひとつ乗り越えてください。

そして、もう一つだけ加えさせてください。それは、自らが発信することです。実社

状態で済んでいると言つてもできるでしょうか。大学が良い方向に行ったときでも議論は同様です。

このように因果関係について考えるということは、本来はそうした価値判断に関わることであるというのはE・H・カーが『歴史とは何か』という本のなかで述べているとおりです。ですからみなさんはうだうだものを

うに思います。ただ、与えられたことだけをこなす日々を過ごすよりも、自ら発信し、求めて生きるほうが仕事も充実し、人生も豊かになるのは間違いないと思います。

昨年は日中国交正常化50周年を祝う節目の年でもありました。1972年9月29日、田中角栄当時の首相が北京において周恩来当時の中国首相と日中共同声明に署名し日中国交正常化が実現しましたが、その際の二人の大袈裟ともいえる腕を振り回すような固い握手が強く印象に残っています。そして、「飲水思源」と田中首相に感謝と敬意を伝えました。以後中国の要人が来日すると必ず田中邸を訪れ病床を見舞ったり、亡くなった後も西山町の生家をお参りしたりと礼を欠くことがありませ

「飲水思源」の想いを胸に

自ら発信 求めて生きよ

会では、より自分の意思、考えを相手に伝えることが重要です。コミュニケーション力としてゼミナールやキャリアアガダンス等で学修したことと思います。ぜひ実践してください。

私は、昔、社会に出るにあたり大先輩に「背伸びしてでも様々な人と付き合え」と言われ、また、違った先輩には「身の丈に合った人生を送れ」とも言われました。振り返ってみると、ケースによってどちらも正しいよ

考えながら自分自身の価値の体系を作つていくのです。そうやってとにかく生きていけば、どんどん自分の価値観も変わっていくと思います。しかしこの価値観の変動ということも大学が制度として目指しているものです。うだうだと生きて行つてください。死ななければ、それだけでじゅうぶんです。ご健勝を祈ります。

研究室を訪ねてみてください。きっと恩師は温かく迎えてくれます。

皆さんご承知の通り、新潟県には大学が、国公立大学7校、私立大学が15校あります。そのうちの10の私立大学で入学者が定員割れとなりました。本学は幸いにも1994（平成6）年以来30年間一度も定員割れすることなく順調に運営がなされてまいりました。これもこれまでの卒業生の各方面での活躍が評価されていることに加え、先生方の熱心な教育・学生支援に高い支持、評価を頂いているものと感謝しているところでです。

ただ、国の予測を上回るスピードで進む少子化とコロナ禍の落ち着きによる一極集中への回帰等、地方小規模大学の運営は益々厳しさを増してまいりました。

さらに今、大学、学校法人には社会の厳しい目が向けられているのもご承知の通りです。スポーツ競技中における危険行為、理事長の脱税問題、学生の薬物使用問題等、組織のガバナンス不全、危機管理の甘さによる不祥事が大きな問題となっています。都会のマンモス大学の出来事で我々地方大学とは関係ないと傍観することなく、自らが襟をただし、危機管理を徹底し、学生をこれらの事件・事故から守ることが私たちの重要な使命です。

これまでの30年を振り返り、これからの30年に向けて、皆さんが自慢できる母校であり続けることができるよう、教職員一体でこれからも、常に大学改革を進めてまいります。皆さんの健康と大いなる飛躍をお祈りしお祝いの言葉とします。



〈総代〉情報システム学科 堀江 直矢

暖かい陽の光が降り注ぎ、桜の蕾も膨らみ始め、春の訪れを感じる季節となりました。本日は、教職員はじめ、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席のもと、私たちのためにこのような盛大な卒業式を挙行していただき、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

コロナ禍で学んだ支え合い

新しいコロナウイルスの影響で、入学式が中止となり、オンライン授業から始まりました。大学生活は、入学前に思い描いていた大学生生活とは全く異なるものでした。大学に知り合いがいなかった私は、慣れないオンライン授業にとっても不安を感じました。他の仲間が遅れを取らないために、半年間必死に過ごしていました。ここにいる卒業生の皆さんも私と同じように不安を感じながらも異例の日々を過ごしてきたのではないのでしょうか。それでも、ゼミの先生方が学生同士の繋がりを作ってくれたり、徐々に大学生活に慣れることができました。

半年後ようやく大学で授業が受けられるようになり、思い描いていた大学生活がスタートしました。オンライン授業とは異なり、何百人の人が一つの教室で講義を受けている光景は圧巻でした。これこそ大学だと思いき感動したことを覚えています。その後も何度かオンライン授業に切り替わることがありましたが、大学で出会った友人と協力し、柔軟に対応することができました。思うような大学生活を送れず、不安なことや、辛かったこともたくさんありましたが、コロナ禍を乗り越え、友人と支え合いながら学ぶことができたことを自信に、これからの人生を歩んでいきたいと思っています。

成長させ、現在の自分を形作っていると感じます。時には越えられない大きな壁が立ちはだかることがありました。ですが、その壁を壊し挑戦を続け、最後まで成し遂げることができました。社会に出て失敗を恐れず、何事にもチャレンジ精神をもってさまざまなことに飛び込んでいきます。



華東師範大学に留学してきて、最初は言語に慣れず、もどかしい思いや悔しい思いもしましたが、毎日、授業の予習、復習を怠らず地道に努力してきた結果、クラス内で成績が1位となり栄誉賞を受賞することができました。自分の努力した結果が形に残ったことをとてもうれしく感じています。



今回の留学で得た貴重な経験を活かしながら、今後も努力し勉学に励んでいきたいです。



2005年に本学に着任し、19年間お世話になりました。多様な分野の専門家の先生方との交流に

視野を広げ 共に学んだ19年間

皆さんとは講義やゼミを通じて多くのことを一緒に学びました。私の専門分野のフランス

よって私の視野を大いに広げることができました。学生の皆さん、や中東・北アフリカのことなど、少しでも関心を持つていただければと願うばかりです。教職員の皆様、職員に支えられてきた充実した日々

上海華東師範大学で輝く成果

昨年9月から今年1月中旬までの約4カ月間、中国上海の

作文コンクール優秀賞

私は2023年度に中国・上海華東師範大学に派遣留学をした。特に、古代の建造物や美しい景色など、すべてが私の心を打つものでした。今回の留学経験が私に国際的な視野を与えてくれたことに感謝しています。

卒業にあたって

私の大学生活は、多くの新しい経験をし、国際的視野を広げることができた、とても意義のある時間でした。NU ISTOURISM PRO JECTの活動では、新潟港に寄港する外国クルーズ船の乗客に、

世界を舞台にした学び

ガイドとして新潟の魅力や英語で紹介し交流

国際文化学科 今田 吉

の活動を通して、とても有意義な大学生生活を

送ることができました。これからの人生で役立つ経験をたくさん得ることができました。ニュージーランドの国立ワイカト大学への留学では、さまざまな国籍の大学生と交流し、異文化体験を通して、多様性を認識することができま

送ることができました。これからの人生で役立つ経験をたくさん得ることができました。ニュージーランドの国立ワイカト大学への留学では、さまざまな国籍の大学生と交流し、異文化体験を通して、多様性を認識することができま

仲間と切磋琢磨の日々

情報システム学科 西方 尚希

私たちの4年間は新型コロナウイルスの影響もあり、オンラインでの大学生活からスタートしました。大学に通って授業を受けることができたのは、1年生の後期からのことで、そこで軽音楽部の仲間たちと出会いました。それからの日々は毎日刺激的なもので、部活動を通してさまざまな音を聴くことができました。

また、新人生歓迎ライブや文化祭でのライブ、卒業ライブなどの活動を行い、時にはライブハウスや万代広場での

の経験ができたことをとても幸せに感じます。4年間支えてくださった先生方、両親、かけがえのない大学の仲間たちに感謝します。本当にありがとうございました。

の経験ができたことをとても幸せに感じます。4年間支えてくださった先生方、両親、かけがえのない大学の仲間たちに感謝します。本当にありがとうございました。

乗り越えた後の達成感

国際文化学科 相澤 裕花

大学生生活振り返ると、長いようであつという間の4年間だったように感じます。入学当初、新型コロナウイルスの影響を直接受けました。入学式もなくオンライン授業で始まったため友人ができる環境にな

く、思い描いていた大学生生活とはかけ離れていました。後期に入り、ようやく新たな友達や先生、職員の方々に支えられ、無事卒業することができました。この大学だからこそ貴重な経験をする事ができたと思います。講義や

ゼミ、学会、課外活動、資格試験などさまざまなことに打ち込むことができました。大変なこともありましたが、乗り越えたあとの達成感は計り知れないものでした。就職活動では、これらの経験が身を結び、やりたかった仕事に就くことができました。

社会人となる今、大学生活で得たものを胸に、頑張っていると思います。この大学に入ってから良かったと心から思っています。本当にありがとうございました。

「さちたびブログ」を発信

経営学科 曾山 日菜子

新型コロナウイルスの影響で入学式はなく、オンライン授業が始まった大学生活でしたが、4年間多くのことを吸収することができました。部活動で先輩や後輩と交流したり、ビジネスコンテストに挑戦したりするなど、授業以外の活動にも積極的に参加しました。

さまざまなことに取り組んだ中でも、特に力を入れたのは、新潟の観光を盛り上げるNU ISTOURISM PROJECTの活動です。外国人観光客に向けた学生ツアーの企画、Instagra

mや「さちたびブログ」での新潟の魅力発信など多くの実践的な学びと経験を得ることができました。何よりもこのプロジェクトを通して、経営情報学部の学生はもろもろ国際学部の学生や新潟県観光協会の方々と

この4年間、本当に充実した時間を過ごすことができました。今まで支えてくださった先生方、職員の方、そして大学で出会えた仲間への感謝の気持ちでいっぱいです。

24人にJABEE修了証書授与

日本技術者教育認定機構（JABEE）に認定されている情報システム技術プログラムの令和5年度修了証書授与式が、卒業式に先立って新潟市民芸術文化会館（りゅーとぴあ）で行われ、24名に修了証書が授与されました。

JABEE認定基準は国際的な技術者教育認定制度に準拠しており、修了生は世界に通用する教育を受けた技術者として認められ、国家資格である技術士の第一次試験が免除される優遇措置が受けられます。

卒業後は、修了生、卒業生、教員の集まりである「交流会」をJABEE委員会が毎年開催しているため、参加して多様な業種間交流や自己研さんの場として活用していただきたいと思います。

（情報システム学科 准教授 河原 和好）



コロナ禍乗り越えた295人門出の春

令和5年度卒業式

令和5年度卒業式(第27回)が3月19日、新潟市中央区の芸術文化会館大ホール(りゅーとぴあ)で行われ、295人(国際学部114人、経営情報学部181人)の卒業生が学窓を巣立ちました。

式典では卒業生が一人ずつ名前を呼ばれて起立し、学科代表にそれぞれ学位記が授与されました。続いて越智敏夫学長が式辞を述べ、「入学式はいきなり中止、授業もオンライン授業となり、対面授業が始まったのは1年生の後期から。皆さんの大学生活はまさに『コロナの4年間』でした。皆さんはこの因果関係をラジカル



に考え、『コロナの4年間』の意味を生間い続けていってほしい』と呼びかけました。

卒業生特別表彰が行われたあと、卒業生を代表して情報システム学科の堀江直矢さんが「思い描いていた大学生活とは全く異なる日々不安を感じながら過ごしてきましたが、コロナ禍を乗り越え、友人と支え合いながら学ぶことができたことを自信に、これからの人生を歩んでいきたいと思えます」と答辞を述べました。

式典終了後、会場を市内のホテルに移して恒例の卒業祝賀会も5年ぶりに再開されました。真新しいスーツや晴れ着姿の目立つ卒業生たちは、乾杯のあとゼミやサークルの学友、教職員らと会食しながら思い出話しに花を咲かせたり、記念写真を撮ったり、ゲームに興じて別れを惜しんでいました。

第27回までの卒業生は合計7,849人に

年度	国際文化学科	経営学科	情報システム学科	卒業者数
令和5年度(第27回)	115人	102人	81人	298人

※9月卒業生含む



令和5年度

卒業生特別表彰

学長賞(学業成績優秀者)

SDGs推進団体 Rainbow World Project 国際文化学科

国際文化学科 相澤 裕花

経営学科 齋藤 有沙

情報システム学科 堀江 直矢

課外活動賞

軟式野球部 江端 航汰
国際文化学科 吉田 祥也

経営学科 小川 翔平
黒鳥 真翔

情報システム学科 田辺 隼人

軟式野球の競技力向上に励み全国大会へ出場を果たすなど優秀な成績を修めた

地域交流賞

MUS TOURISM PROJECT 国際文化学科
相澤 裕花 今田 吉
市野瀬 裕花 齋藤 我生

経営学科 曾山 日菜子 野瀬 歩夢
高橋 彩加

第26回日本国際観光学会全国大会で優秀な成績を修め、英語の通訳ボランティアとして活躍するなど本学で培った語学力を活かし課外活動に積極的に取り組み高い評価と称賛を得た

国際文化学科 星野 陽

新潟県内において本学で学んだ理論を応用しながら様々なプロジェクトに長期にわたって携わり、SDGsの普及啓発と地域活性化に尽力した

SDGs推進団体 Rainbow World Project 国際文化学科

星野 陽 濱島 穂乃花
伊藤 愛里 渡邊 琴音
近藤 佳菜 渡辺 裕翔

第2回にいがたSDGsアワードで顕著な成績を修め、新潟市内において様々なイベントの企画・運営や取り組みを継続して行い高い評価を受け、SDGs推進に貢献した

学術賞

国際文化学科 青木 綾香

TOEIC・実用英語技能検定・中国語検定・HSK漢語水平考試ならびに韓国語能力検定試験において優秀な成績を修めた

国際文化学科 市野瀬 裕花
今田 吉

TOEICならびに実用英語技能検定において優秀な成績を修めた

国際文化学科 伊藤 愛里
長澤 歩乃佳

中国語検定ならびにHSK漢語水平考試において優秀な成績を修めた

国際文化学科 小林 美早紀
韓国語能力検定試験ならびにハングル能力検定試験において優秀な成績を修めた

国際文化学科 八幡 心寧

TOEICならびに韓国語能力検定試験において優秀な成績を修めた

情報システム学科 佐久間 風
ネットワークスペシャリスト試験ならびに情報処理安全確保支援士試験において優秀な成績を修めた